

首相主導の下でマナーマにおける日本との会談

政治的・経済的パートナーシップ 協定 4 件署名へ

- 通信及び石油分野における日本技術の活用
- エネルギー、人間開発、天然真珠開発分野における協力
- 地域治安状況に関するディスカッション
- ペルシア湾における安全航海の確保

日本の首相発言：

- バーレーン革命におけるハリーファ・ビン・サルマーン首相の多く努力を評価
- どんな理由があろうと、テロは断じて受け入れない
- バーレーン首相への訪日招待

マナーマ：昨日夕刻、グダイビヤ宮殿にてバーレーン（ハリーファ・ビン・サルマーン・アール・ハリーファ首相）と日本（安倍晋三首相）との会談が開かれ両国の歴史的関係や友好関係、相互発展に関する課題について述べた。

会談中、ハリーファ首相は地域安全や世界の安定における主導的役割について話し、両国の自由貿易協定の実施手続きのための戦略対話の更なる前進の重要性を示した。一方、安倍首相はバーレーンの革命と発展におけるハリーファ首相の多くの努力について触れ、特に開発や治安強化・地域安定といった分野の目標達成のための努力を評価した。また、テロについて安倍首相は「どんな理由があるにしても、テロは許すべきではない」と述べている。最後に安倍首相はハリーファ首相を日本へ招待した。

今会談では、両国間の今後の様々な分野における協力について話し、特にテロやマネー・ローンダリング防止といった政治的・治安的分野や通信や石油開発での日本技術の活用の方針を示している。また、両国は再生可能なエネルギーや新エネルギー開発、人間開発、中小企業特に天然真珠を扱う企業に関する協力について合意した。これに留まらず、両側は文化交流やペルシア湾における安全航海の確保についての合意を示した。ハリーファ首相は日本政府がバーレーン国籍の公用旅券、スペシャル旅券所有者に対する査証免除措置の検討に対して謝意を表すと共に、2020年オリンピックが東京で開催されるよう応援していると表明した。

更に、両首脳は、両国の外務省が地域安全や航路安全を含む海上保安や、海賊対策についての対話を再開するよう合意した。また、今回の会談では保険・ヘルスケア、医療研究、マネー・ローンダリングおよびテロ資金提供、農業といった分野で4つの協力文書が署名された。

ハリーファ首相と安倍首相は今後の相互発展を目標とした二国間協力、特に、経済協力や

投資をベースにした協力の拡大について話した。また、両首脳は、両国の友好関係を基に両国のポテンシャルを活かし二国間協力の見本として世界に発信できるよう努力することを示した。更に、バーレーン首相は、両国の何十年にも渡る友好関係がどのような成果をもたらすか、特にバーレーン国王の訪日後の成果について期待を示した。

首相は日本の国際社会の平和や安全、持続的な開発における役割の重要性、特にバーレーン国に対する協力的な姿勢について言及した。

ハリーファ首相は、バーレーン国が両国の関係を深めて政治、経済、安全、文化といった分野での相互の発展を目指したいと表明すると共に、日本の経験や高度な技術を活用したいと述べた。また、両国間の協力、そして日本と湾岸協力会議諸国との協力の重要性について表明した。

また、ハリーファ首相は、保険、治安強化、貿易の協力拡大をするとともに、製造・農業技術、食糧安全、陸空交通分野における日本企業の技術と経験を活用したい方針を述べ、今回の署名される覚書が両国の絆が深まるよう祈っていると話した。

また、両首脳の立ち会いの下で、四つの協力文書が署名された。

- ① 農業協力に関する日本国際協力センター（JICE）と地方自治・都市計画省との覚書
- ② 医療分野での協力に関する厚生労働省と保健省との間の覚書
- ③ マネー・ロンダリング及びテロ資金供与に関する情報交換に関する国家公安委員会と内務省との覚書
- ④ 臨床研究に関する SBI ファーマとキング・ハマド大学病院との間の合意文書